



# 志友会報

802-0985 北九州市小倉南区志井6丁目11-13  
（株）武出版 093(962)7740 FAX093(961)8224  
Eメール: saigo@skyblue.ocn.ne.jp

本紙の年間購読は本体3,000円＋税です。

## 合気語録

秘伝科学が抜け落ちてしまった現代の武道界や格闘技界

「合気」もその古代科学の宇宙の玄理から出発したものであり、ここには原始太陽の神代からの、発生前の理がある。さて、原始太陽はその後、宇宙創造の根源として、三柱の神を創造した。この神こそが、天之御中主神を中心軸に据えた神であり、その軸を左右に転じる神が高御産日神であり、神産日神である。

この三柱の神は、それぞれが独立した神でありながら、一体となつて活動する神である。天之御中主神は中心に坐する神であり、同時に人の中心に坐する神である。また、高御産日神は何処までも高く、気高く、健く、外に発する遠心力を伴つ働きをする。

更に、神産日神は、カミ、である事から「嘯む」であり、嘯みしめる内包する、あるいは中心軸に向かう事を目的として働く神である。この三柱の神の働きによって、「合気」が構築されていくのである。これが一致した時、「駄動」として人間のから発気されるのである。「合気」を秘伝科学として考える根底には、宇宙の三柱の玄理があり、これが臍下丹田より発気されて、高御産日神が具現化されれば「脱力」となり、これが合気力となる。

また密着し、人身として懐に入り、力が凝縮されれば神産日神の働きが具現化されて、高度な集中力を発する事になる。これを西郷派大東流合気武術では、「秘伝」と称するわけである。

ある。

### 今日の合気武道界の現実

《合気》は極めて難解な技法である。その構築を考えて見ただけでも、気の遠くなるような習得の為に各段階に於ける各々の《修法》と《行法》がある。それがまた習得の為に修練法を複雑にする。

ある指導者は基本である「一本取り」を十年撃つても遣れと言つし、またある指導者は「力の無用論」を力説して憚らない。合気武道界（八光流を含む）では各々が異なった見解を示し、異なった宗教観（神道、大本教、キリスト教等）を以て雄弁力で他を圧するようなどころがある。

さて、合気を表看板の売り物にして「合気道」にして、まず触れてみることにしよう。合気道は大きく分けて、その指導者が戦前派と戦後派の二つに分かれる。これは合気道の開祖植芝盛平の精神的成長の度合で、各々の時代に於ける指導法が異なっている為である。戦前の合気道は大東流系であり、戦後は一変して新興武道として神道の「行」を模倣した。

特に、大本教の宗教観で捕えた精神修養的合気道になった。その精神修養的な考え方が《武産合気》であった。

戦後の合気道の特徴は、大本教の宗教観が全面に打ち出されて、本来武術であった筈の当身業（武術に使う七十箇所のうち重要活二十四箇所）をそのうち重要活（二十四箇所）を含む柔術が、いつの間にか《神楽舞》に摺り変わったというところである。

この《神楽舞》は回転する事によって神懸り、《産霊之理》を以て幽遠な境地に至るとする神事に準えていることが昨今の合気道（特に合気会）の実情である。

これは修行者の植芝盛平自身からすれば精神的領域での進化であったかも知れないが、戦前合気道は大東流系として学んだ人達や武術として捕えた人達は、この《神楽舞》が、武術とどのように関連しているか、その意図が理解できず、合気会植芝ファミリーに狐疑を示しているのが現実である。

## 合気戦闘理論 その五

歴史に刻まれた教訓に学ぶ

太平洋戦争には、多くの教訓が残されている。しかし、「おぞましい過去の出来事」と一蹴すれば、この教訓は生かされず、再び歴史の繰り返しの渦に巻き込まれる事は必定である。歴史は、再び繰り返す法則を持っているからだ。

「戦争は、もうこりこりだ。二度とこうしたものは避けなければならぬ。戦争体験者は次世代にこの悲惨さを伝えねばならぬ……」という使命感を持ち、反戦運動に情熱を燃やす人が居る。一方で、この情熱は、何らかの使命感を帯びているかのような言辭に錯覚を抱く。

しかしこの言辭は、戦争の根本を洞察するものではなく、その彼等の言辭のそれは、憎悪に満ちた「感情」そのものであるからである。戦争は悪い、太平洋戦争は誤りだった、アメリカの無尽蔵な工業生産力を考えれば無謀な戦いだ、それ故に軍国主義に反対する等と豪語する感情が、いつの間にか「絶対的正義」のように取り扱われている現実を見る。

またマスコミも一緒に、こつした彼等の感情論で肩を持つ。しかし戦争は一方的に勃発するものではない。相手国あつての事だ。戦いに、一人相撲は存在しないのである。しかし反戦情熱家のそれは、必然的に、あるいは軍国主義者が一方的に戦争指導を行い、戦いの渦の中に引き込んだような錯覚を抱かせる。

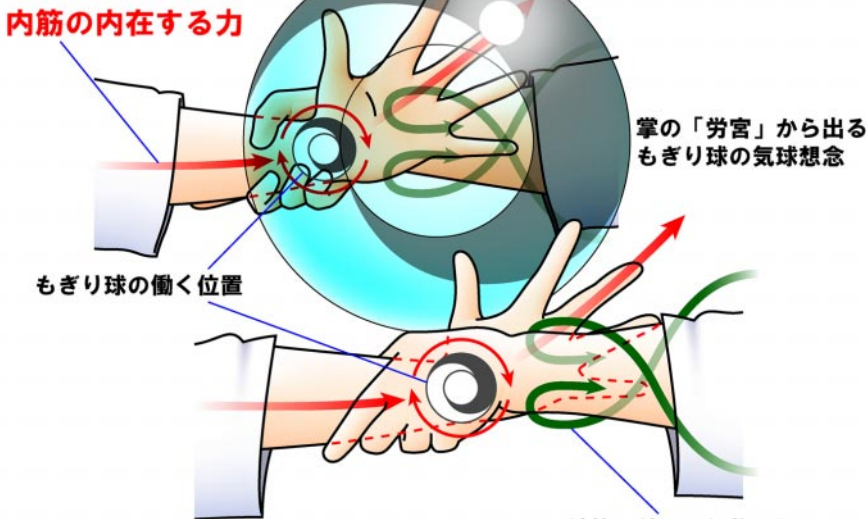
だろつが、格闘技の世界は、和すること、愛することが理解できない修羅の世界である」と逃げ口上を申し立てたところで説得力がなく、その真価が如何程のものか、格闘技修行者から合気道自体がそれ程、高く評価されて無用の現状のようだ。

その為に、難解な合気を理解できない若い指導者達は、「突きや蹴り」は空手に頼り、「投げ」は柔道に頼り、気の理論は「気の研究会」や「西野式健康法」等の「気の存在を力説する

も、二等モランクが上で、優れた国家だと礼賛したあの愚行に酷似する。そして「反戦」という頑迷な絶叫が、左翼陣営の強力な感情論になつて展開された。つまり何も原因を考えないで、「戦争はもう懲り懲りだ」という思考である。

今日、国民の多くは結果に照らし合わせて、そこに至った原因究明の冷静な探知の目を失っている。戦闘理論を考える武略観は、感情で語るのではなく、理性や知性を振り所に、戦争体験あるいは戦闘体験を語り、それを冷静に眺め、その中から必須要因や敗因を洞察すべきで、感情を全面に打ち出し、ヒステリックにシユプレヒョールを上げる事ではない。

戦闘理論を考える武略観は、感情で語るのではなく、理性や知性を振り所に、戦争体験あるいは戦闘体験を語り、それを冷静に眺め、その中から必須要因や敗因を洞察すべきで、感情を全面に打ち出し、ヒステリックにシユプレヒョールを上げる事ではない。



略・簡化したことは有効な極め手を捨ててしまった事にも等しかった。合気道では動きを奇麗に見せる為に、専ら「手首・肘関節・肩関節を極める」「手首や肘を取って投げる」「タイミングに合わせて呼吸投げて投げる」「相手の不注意の隙を突いて崩す」等の非現実的な、腰から上の上半身の技が中心である。こつした投げ技の類いは、実戦には極めて掛ける事が難しい、技法でもある。

戦闘と言えは肩をしかめ、軍事と言えは肩を背け、戦争は悪の権化、おぞましいもの、最たるものと評する人達を一概に否定はしない。しかし何故、戦争が起るのか。こつして戦いが始まるのか、というメカニズムと、その過程に至るまでのプロセスについては、それが例え誤りであっても、感情論を振り回し、ヒステリーに糾弾しても、決して解決できる事ではない。人類は地球上から戦争を無くしたり、争いを無くしたりする程、完全無欠には完成されておらず、話し合ひでこれを片付けるほど、まだ十分に進化していないのである。

二十一世紀に至つても、国際紛争は火種を絶えず、世界の至る所で戦争の火種は燃えている。防衛問題一上げて見ても、過去の昏い体験論や、それの混合されたイデオロギー的観念論が、一人歩きして、今なお、巷を徘徊中である。

率直に言えば、歴史的な教訓を伝えようとする場合、悪乗りで、便乗気味の反戦主義者の言よりも、実際に戦争の現場に從軍し、それを戦い、その結果、人命の尊さや平和の有難さ、あるいは戦闘を通じて悲惨さを痛切した人の言の方が、数倍も重みを持っている事は明らかだ。そして戦争観を通じて分かってくる事は、例えば太平洋戦争を指導した軍人を分析していくと、結局、当時の戦争指導者並びに職業軍人の多くは、「人間を知らない。政治を知らない。外交を知らない。歴史を知らない。そして軍人でありながら、戦争そのものを知らない」という由々しき事態に突き当たるといえる。これは今日の、肉体を信奉し、好戦的に物事に挑む、格闘技愛好者や競技スポーツ愛好者に酷似し、同程度の近視眼的視野と類似するのである。

合宿での指導内容：  
合気揚げを中心にした力貫・合気初伝から奥伝・合気柔術・大東流剣術・大東流合気杖・居合居掛之術・大東流合気拳法山稽古（野外戦闘術）・滝行（菅生の滝での御滝場行法）・据物斬り・合気統覚法・真言九力・水擲行法・合気行法・野営実践稽古・野営における食養野草の智慧・霊的食養道など

# 合気



合宿期間：8月11日～15日  
於て：総本部・尚道館

## 平成16年夏季合宿セミナー

大東流合気秘密は「合気揚げ」の鍛練法にある。この合気揚げは、自身の上肢だけの作用で相手を浮かす鍛練であるが、この鍛練は手先の集中力だけではなく、臍下丹田から出る、独特の呼吸法を行って、手から肘へ、肘から肩へ、肩から腹部へと移行させる術なのだ。

お問合せ：〒802-0985 北九州市小倉南区志井6丁目11-13  
総本部 尚道館 093(962)7710代表  
<http://www.daitouryu.com>